

1. 計画の目的(目指すもの)

本計画は、角田山、多宝山の魅力ある豊かな森林環境を「地域の宝」「市民の宝」として次世代に引き継ぎ、将来にわたり持続的に活用していくため、関わりが深い地元の人々を中心とした多くの市民の協力による保全と活用の仕組みづくりの方向を示すことを目的とする。

政令指定都市である本市の市街地から至近距離にあつて、多くの動植物をはじめとする豊かな森林環境を有する角田山、多宝山は、かつて生活に密着した薪炭林であるとともに、全国的に知られた林業が地域経済を潤していた里山であり、地域の人々に多くの恵みを供給していた。

時代が移り、外材の輸入、燃料革命、人々の生活様式の変化等により、角田山、多宝山の産業的機能は失われ、生活との関係も薄れ、里山の利用や保全に対する地元の人々の意識や関わりが徐々に希薄となり現在に至っている。

かつて「生活・生産の場」であつた里山は、現在、都市近郊の保健・休養・レクリエーションの場として、また、日帰り登山、山野草や草花を楽しむ山へとその利用のありかたが変化している。

現在も角田山、多宝山の多くの面積を占める杉の人工林は林業の衰退とともに手入れが行き届かず荒廃しつつある。

また近年、春の雪割草・カタクリなどの知名度が全国的に高まり、熟年層などを中心とする健康志向ともあいまって、山の利用者が増大し、これに伴い登山道や山頂の損傷が進むとともに、登山道外への入り込みが多く見られるようになっている。

角田山・多宝山の豊かな森林環境を保全し、その魅力と価値を高め、次の世代に引き継いでいくためには、かつて地域の人々との関わりの中かで保全、活用されてきた里山のありかたを、現在の社会情勢や地域の産業、生活との関わりに置き換えた仕組みづくりが必要となる。

そのためには地域住民、土地所有者、地元産業関係者、利用者等が協力して角田山・多宝山の保全と活用に取り組んでいくことができるようにするための仕組みづくりの方向について検討を行い、合意形成を図る必要がある。

【角田山・多宝山の目指すべき姿】

- S40年頃までの角田山・多宝山
保全と活用のバランスが
保たれていた

地域の暮らしと密接に結びつき、バランスのとれた利活用がされてきた「金屏風」の山（＝地域のもの）



- 現在の角田山・多宝山
保全・活用のバランスが崩れ、
荒廃の恐れ

- ・ 人の手が入らなくなり、登山者のオーバーユースによる山林の荒廃
- ・ 「地域の宝」から「市民の宝」へ

※) オーバーユースとは、自然に回復が出来なくなるほど多くの人々が利用することです。



- これからの角田山・多宝山
新たな保全・活用の仕組みにより
「市民の宝」に

「地域の宝」・「市民の宝」として新たな活用と各団体が一緒になった保全

